

東京 シンフォニエッタ

第48回定期演奏会

作曲家の横顔 武満 徹

～ 生誕90年～

武満 徹 Toru Takemitsu (1930-1996)

雨ぞふる
Rain Coming (1982)

雨の呪文
Rain Spell (1982)

系図 —若い人たちのための音楽詩—
Family Tree —Musical Verses for Young People—
(1992-2003 岩城宏之編曲による室内楽版)

川島素晴 Motoharu Kawashima (1972-)

And then I knew 'twas Toccata II
(2020) —委嘱初演—



Aimi Hayashi



Toru Takemitsu



Motoharu Kawashima

2020.12.3

[THU] 18:15 開場 19:00 開演

東京文化会館 小ホール
(JR上野駅公園口)

全席自由 一般4,000円 学生2,000円

[出演] 指揮:板倉康明 語り:林愛実
演奏:東京シンフォニエッタ

主催:一般社団法人 東京シンフォニエッタ
助成:芸術文化振興基金
公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 ARTS COUNCIL TOKYO
公益財団法人 NOMURA 野村財団 / 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

制作協力:東京コンサーツ ※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

Portrait of Composer
Toru Takemitsu

作曲家の横顔 武満 徹 ~ 生誕90年 ~

ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督
板倉 康明

改めて言うまでもなく、武満徹は日本の重要な作曲家であり現在も尚、世界的にその作品は演奏されていて、今年生誕90年を迎える。私たち東京シンフォニエッタは日本の演奏団体として、海外公演でもたびたび取り上げている。今回はその室内オーケストラの作品、「雨ぞふる」、「雨の呪文」に加え、故・岩城宏之氏がその手兵、オーケストラ・アンサンブル金沢のために自ら縮小版を作成した「糸図」を中心に据える。

没後二十余年を過ぎ、作曲家自身と交流のあった演奏家の数は減少して行くのみだが、貴重な証言も踏まえつつ、改めてその残した楽譜を詳細に検討して、その音楽を再評価する契機となればとの強い思いがこの企画の根底にある。というのも全ての著名な作曲家に言える事だが、「作曲家はこう言った」という言葉が独り歩きして、楽譜に定着された作曲家自身の言葉と異なった演奏が見られる事への危機感を持っているからである。もちろん楽譜というものは作曲家の思考を全て表しているものではないし、常に幾らかの余白を残して楽譜化されているものである事は前提としてあるものの、非常に精密に書かれている武満徹の楽譜を徹底的に読み込む事により作曲家自身も無自覚であった新しい読み方=魅力が見出せるのでは無いかとの思いがある。

私個人の武満徹との個人的な経験は、まだ学生だった1984年5月7日、パリ、シャンゼリゼ劇場での「オリオンとプレアデス」世界初演の際、通訳として裏方を手伝った舞台裏で「パリも変わりましたよね」と声をかけていただいたのが最初で、その後さまざまな音楽会でお目にかかる機会はあったものの、いわゆる「武満徹の仲間」と言う立場では全く無い世代である。ただ、最初の会話が非常に印象深く、作曲家の人柄への強い印象は未だ新鮮な記憶となっている。

そしてその次の世代の注目すべき作曲家であり、武満徹作品の深い読みをした、しかし異なる美学をはっきり持っている川島素晴に新作を委嘱し、武満徹の音楽への日本の音楽家たちのそれぞれの立場からの再評価の場として充実した演奏会としたい。



武満 徹 (作曲)

20世紀の偉大な作曲家のひとり。映画音楽の作曲家としても広く世界的に知られている。独学で作曲を学ぶ。57年に発表された「弦楽のためのレクイエム」がストラヴィンスキーに称賛され、その後、「ソーン・カリグラフィ」で58年の20世紀音楽研究所主催作曲コンクール第1位受賞。日本の伝統楽器を使用して行ったさまざまな試みは「エクリプス」「ノヴェンバー・ステップス」「秋庭歌」や、「怪談」「切腹」「乱」などの映画音楽に実を結んでいる。武満が作曲した多数のオーケストラ、室内楽、ソロ作品、90本以上の映画音楽は、現在世界中で演奏されている。作曲活動に加えて日本万国博覧会鉄鋼館音楽ディレクター、MusicTodayの企画構成、サントリーホール国際作曲委嘱シリーズの企画監修、東京オペラシティの芸術監督等をつとめ、日本の音楽界の中心として幅広く活躍した。国際モリス・ラヴェル賞、グロマイヤー作曲賞、ロサンゼルス映画批評家賞、フランス芸術文化勲章、尾高賞、日本芸術院賞、モービル音楽賞、朝日賞、京都音楽賞大賞、飛騨古川音楽大賞、毎日芸術賞、サントリー音楽賞など国内外の多くの賞を受賞。1996年2月20日死去。享年65。



川島 素晴 (作曲)

1992年秋吉田国際作曲賞、1996年ダルムシュタット・クラークニヒシュタイン音楽賞、1997年芥川作曲賞、2009年中島健蔵音楽賞、2017年一柳慧コンテンポラリー賞等を受賞。いづみシンフォニエッタ大阪プログラムアドバイザー。「タモリ倶楽部」や「題名のない音楽会」等に解説者として登場。「アンサンブル東風」指揮メンバー等、様々な演奏活動も行う。(一社)日本作曲家協議会副会長。国立音楽大学及び同大学院准教授。

今から30年前。武満徹が還暦を迎えた1990年は、史上最大の武満イヤーだった。その年にたまたま浪人生となり時間を持て余していた私は、全作品を聴き、全著作を読み、数多あるイベント(コンサートのみならず映画上映やトークに至るまで)のほとんどに出かけるほどの武満オタクだった。私の活動が軌道に乗った頃に亡くなったので、生前お話しすることも叶わず、今なお憧れの存在であり続けている。その後様々なアニバーサリーの機会に楽譜の研究やコンサート企画で向き合ってきたが、この度、生誕90年にしてようやく、作曲家としてご一緒する機会を賜った。新作の題名は武満の「そして、それが風であることを知った」を下敷きとする。今の私の作風は武満のそれとはほど遠いが、武満オタクだった頃から30年を経て、今の私にとって彼の存在は「風」なのだと思います。新作における無窮の「トッカータ」の中に宿る武満の「風」を感じて頂けるはずである。

川島 素晴



林 愛実 (語り)

国立音楽大学フルート科卒業、及び弦管打楽器ソリスト・コース修了。洗足学園音楽大学院管楽器科首席卒業。フルートを野原千代、菅井春恵、大友太郎の各氏に師事。ジャンルレスなレパートリーで年間200を超えるステージ演奏を行なっている。株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントSDグループ主催、CLASICAL STARSオーディション優秀賞受賞。また世界三大ミスコンテストであるミスワールドジャパンのファイナリスト、タレント部門一位、マルチメディア部門2位、審査員特別賞を受賞。

チケット予約

■ 東京コンサート (問合せ先)

03-3200-9755 (平日 10:00-18:00) <http://tokyo-concerts.co.jp/>

■ 東京文化会館チケットサービス

03-5685-0650 (10:00-19:00 休館日を除く) <http://www.t-bunka.jp/>Music Director
板倉康明Flute
斎藤和志
齋藤光晴Oboe
辻 功
渡辺康之
梅枝理恵Clarinet
佐藤和歌子
西澤春代
川越あさみBassoon
長 哲也
守屋有紀
多田逸左久Horn
有馬純晴
中島大之
岸上 穰Trumpet
坂井俊博
高橋 敦Trombone
西岡 基Tuba
渡辺 功Saxophone
小串俊寿Percussion
松倉利之
和田光世
石崎陽子Harp
木村茉莉Piano
藤原亜美Violin
山本千鶴
海和伸子
梅原真希子
吉成とも子Viola
百武由紀
吉田 篤
守山ひかるCello
花崎 薫
高麗正史
宇田川元子Contrabass
吉田 秀
那須野直裕
長谷川信久Electronics
有馬純寿<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/>

東京シンフォニエッタ第49回定期演奏会

東京シンフォニエッタソリストシリーズ・トランペット～坂井俊博

2021年7月9日[FRI] 19:00開演 東京文化会館 小ホール